

災害対策委員会企画ワークショップ

災害に備えて平時からの備えを共に考えましょう

“Psychological・Zero・Aid”のご紹介

大川 貴子（福島県立医科大学）、福田 紀子（慶応義塾大学）、澤田 いずみ（札幌医科大学）
加藤 郁子（福島県立医科大学）、田中 浩二（金沢大学）、柳澤 美紀（長野赤十字病院）
山岡 由美（大阪医科薬科大学）、岩切 真砂子（慈圭病院）、藤代 知美（高知県立大学）
青本 さとみ（九州大学）

本学会は、2011 年 3 月の東日本大震災直後から災害支援事務局を発足し、同年 6 月に災害支援特別委員会を設置して、「精神科病院で働く看護師のための災害時ケアハンドブック」「COVID-19 の対応に従事する医療者を組織外から支援する人のための相談支援ガイドライン」の作成などに取り組んできた。また、2021 年の第 31 回学術集会では、COVID-19 や東日本大震災におけるメンタルヘルス支援での共創造をテーマとする 2 つのプログラムが大会企画として行われた。これらの活動を通して、災害に備えるためには平時からの連携が大切であることが浮き彫りとなった。

そこで災害対策委員会は 2021 年度より、災害に備えた平時からのネットワークづくりに向けて、意見交換会を実施してきた。そこでは、精神看護専門看護師、看護系大学等の教員、看護管理者、それぞれの立場から災害に備えてネットワークづくりをする上での現状と課題について共有された。それらの意見を踏まえ、災害対策委員会では、災害時のメンタルヘルス支援に関わる研修プログラムを開発し、その普及啓発を目的とした講習会を通じて本学会会員間の災害に備えた平時からのネットワークづくりを図ることを目的とした活動に取り組むこととした。災害が発生初期の“First”よりも前の段階、すなわち何も起きていない平時を“Zero”と捉え、この研修プログラムを“Psychological・Zero・Aid”と呼ぶこととした。本プログラムは、災害がメンタルヘルスに与える影響の理解の促進と、発災時における「支援力」と「受援力」を高めることを狙って構成している。

本ワークショップでは、学会員の皆さまや本学会に参加されている方々に、“Psychological・Zero・Aid”による研修会に参加して頂き、災害に備えて支援力や受援力を高めるための一助として頂くと共に、ディスカッションの時間を通して参加者同士の“平時からのつながり”をもつきっかけとして頂ければ幸いである。